

第9回災害対策本部会議における知事コメント

昨日より、県と国の政府非常災害現地対策本部の会議を合同で開催しております。

津島現地対策本部長をはじめ、各省庁の皆様には早速、「給水支援本部の立ち上げ」、「はくおうⅡを活用した入浴・休憩支援」、「自衛隊のヘリや海上輸送艦を活用した食料や物資の輸送」など様々な支援策を迅速にご提案・実施いただき感謝申し上げます。

また、九州電力さんのご尽力により、昨日全てのエリアで停電解消の見通しが立ったところであります。改めて感謝申し上げます。ただ、しばらくの間は、被災された方々が普段どおりに電気を使用するまでのサポートが必要だと思っておりますので、引き続き全力を尽くしていただきますよう、よろしくお願い致します。

地震発生後、はじめての週末を迎えます。各市町村では、罹災証明書の発行や災害廃棄物への対応、住家被害認定調査などの業務がスタートし、生活再建のフェーズが本格化して参ります。

ただ、今日・明日も、非常に暑い日が続きますので、支援にあたられます皆様も、熱中症対策には十分に気を付け、活動していただきたいと思います。

県におきましては、昨日から、市町村の避難所支援、罹災証明書受付、災害ゴミ関係業務などをサポートするため、職員の派遣を開始しております。

中でも、この土日の夜間の避難所運営にも県職員を派遣し、疲労がたまっている市町村職員の負担を軽減したいと考えています。

また、先ほど健康福祉部から報告がありましたが、今一番のリスクは、「熱中症」です。

本日から、国・県で連携して、①飲料水確保のラストワンマイル支援、②トイレ環境の改善、③避難所の空調改善に取り組み、被災された方々の「熱中症対策」をさらに強化したいと考えています。

引き続き、被災された皆様への影響を最小化するとともに、日々変わりゆく市町村のニーズを確認しながら、最大限、支援を行ってまいります。

「初動期」の対応が、その後の復旧・復興のスピードを大きく分けます。被災された方も、支援する側も疲労が蓄積している頃だと思いますが、十分な休息を取りつつ、全力で取り組んでいきましょう。本日も1日、よろしくお願い致します。